



SK松本ジュニア合唱団
団長 芦田勝弘

本日は年末を迎え何かとお忙しい中「SK 松本ジュニア合唱団 2009 クリスマスコンサート」に御来場頂きまして誠にありがとうございます。

当合唱団は 1993 年の SKF (サイトウキネンフェスティバル) が上演したオペラ「火刑台上のジャンヌ・ダルク」に出演した児童合唱団を母体に結成され、SK の文字を誇りに、地域に愛される合唱団を目指し活動を続け、16 年の歴史を重ねるまでになりました。

今年の 1 月には合唱団創設 15 周年を記念して、初めての海外遠征を行いました。音楽の都ウィーンでの演奏会に出演、また「サウンド・オブ・ミュージック」の故郷ザルツブルクを訪問しました。大勢の方々の支援によって達成することができた今回の国際交流事業では、楽友協会ホールでの演奏や教会でのミサ曲の演奏など、多くの得がたい体験を積むことができました。これらの経験は次代を担う子ども達に達成感と共に大きな自信を与えてくれました。子ども達にはこうした体験や素晴らしい音楽を作り上げる感動を通して豊かな感性を育み、伸び伸びと育てて欲しいと心から願っています。

今年のコンサートでは海外遠征を記念して「サウンド・オブ・ミュージック」からの曲を取り上げました。トラップ家の子も達とマリアとの心の触れ合いや舞台となったザルツブルクの街並み、雄大なアルプスの景色を感じて頂ければ幸いです。またミサでは教会のホールにも響いた天使の歌声のような素晴らしいハーモニーをお楽しみください。

改めてご指導の先生方、長野県松本文化会館関係の皆様方、またご支援を頂いている多くの方々に感謝申し上げ、これからも SK 松本ジュニア合唱団を温かく見守り、育てて頂くことをお願い申し上げましてご挨拶と致します。本日のコンサートを充分にお楽しみ下さい。



長野県松本文化会館
館長 堀内征治

今年 1 月、音楽の殿堂であるウィーン楽友協会ホールで、「長野県合唱祭 in ウィーン」が開催されました。そのコンサートで、ホールに響いた SK 松本ジュニア合唱団の歌声は、それは、それは素晴らしいものでした。超満員の聴衆が、満面の笑みを湛えて、ひととき大きな喝采を送ってくださったこと、その拍手がいつまでも鳴りやまなかったことは、印象的で忘れられない出来事です。それは、そのコンサートの主宰の一人であった私が、SK 松本ジュニアの皆様からいただいた「長野県人としての大きな誇り」でもありました。

ご縁を得て、この 4 月から長野県松本文化会館での任を賜り、SK 松本ジュニア合唱団とは、さらに親しい関係を持たせていただけることとなりました。そして、本日ここに、海外への飛躍を果たした成果も込めて、「2009 クリスマスコンサート」が盛大に開催されますことは、誠にご同慶の至りでございます。指導の皆様をはじめ、ご尽力いただいた関係者すべての方々に感謝申し上げます。

世界では、まだ争いが続く地があり、国内も不況から脱しきれない状況です。このような不安なときこそ、心をひとつにして歌うことは、「平和」を希求する大切なメッセージだと思います。これからの時代を背負う SK 松本ジュニア合唱団の皆様のご今日のエネルギーも、グローバルな平和につながっていくものと信じております。合唱団のますますの発展をお祈り申し上げるとともに、皆様のお力で、さらに大きく育てていただくことをお願いしてご挨拶といたします。